



議会間交流

議会間交流は、衆参両院の議長が単独であるいは連名で諸外国議会の議員団を公式に招待したり、逆に衆参の議員団がそれぞれ個別にあるいは合同で諸外国議会を公式訪問したりする形で行われています。

議会間交流の最大の目的は、政府間関係とは違った角度から、それぞれの国民を代表する議員同士がお互いに顔を合わせて直接対話し、視察等を通じて幅広く各界の人々と接触することにより、その国の実情を踏まえたハイレベルでの相互理解を深め、両国間の友好関係を増進することにあります。

相手国が二院制の場合、参議院の交流の相手方はその国の上院になりますが、一院制の国が相手の場合でも、議会間交流の目的に鑑み、近年は必ずしも両院で対応する必要がない場合は参議院単独で対応することが多くなっています。参議院では、衆参両院で行うものを含めて例年4、5か国程度の議員団を招待し、また、議長や副議長等を団長とする議員団を諸外国議会からの招待に応じて海外へ派遣しています。

昭和29年に衆参両院で英国国会議員団を招待したのを皮切りに、参議院はこれまで約60か国の議会と交流を行ってきました。東西冷戦に伴う国家対立から東欧諸国やモンゴルなどのいわゆる東側諸国との交流が全体的に低調だった時代もありましたが、当時より参議院はそれらの国々とも積極的に交流を行ってきました。このような参議院の活動は、国家間の継続的な交流に大きな役割を果たし、今日の友好関係の礎になったと言えるでしょう。最近では、中国全国人民代表大会やアメリカ上院との間で定期交流を始めるなど、議会間交流の更なる深化を進めています。

昨年度（平成22年度）は、クロアチア、ラオス、フランス、ウズベキスタン、ボツワナの5か国の議員団を招待しました。訪日議員団はそれぞれ衆参両院議長ほか政府要人との懇談、最先端科学技術施設の視察など精力的に日程をこなし、一行からは日本への理解が深まったとの発言が何度も聞かれました。また、尾辻副議長を団長とする議員団がキューバ、メキシコを公式訪問し議会要人と懇談を行うなど、活発な議会間交流が行われました。

近年では、従来の議会間交流という枠を超えた取組も行っています。参議院はI P U（列国議会同盟）が実施している新興民主主義国の民主化支援プロジェクトに賛同しており、平成18年6月にはアフガニスタンの議員団を迎えて、議会制度やその機能、また立法過程や議事手続等に関する研修を実施しました。議会制度などをレクチャーしてほしいという各国からの依頼の数も増えており、これまでの議会間交流の枠を超えた、議会間協力という役割が参議院にも求められるようになってきています。

最後に、平成23年3月11日に発生した東日本大震災後、多くの国の議会要人から参議院へ哀悼と連帯の意思を表明する書簡やメッセージが届けられました。これまでの交流を通じて培われてきた諸外国との友好関係が形となって表れたのではないのでしょうか。

にしお ますみ
(西尾 真純・国際部国際交流課国際企画室)